

平成28年度全国学力・学習状況調査 — 茨城町の状況について —

文部科学省が全小中学校の小学6年生の児童・中学3年生の生徒を対象に、国語と算数・数学について「知識（A問題）」「活用（B問題）」に関する学力調査及び、質問紙による児童・生徒の学習状況等について調査を実施しました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。

- ・A問題…身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ・B問題…知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

教科に関する調査

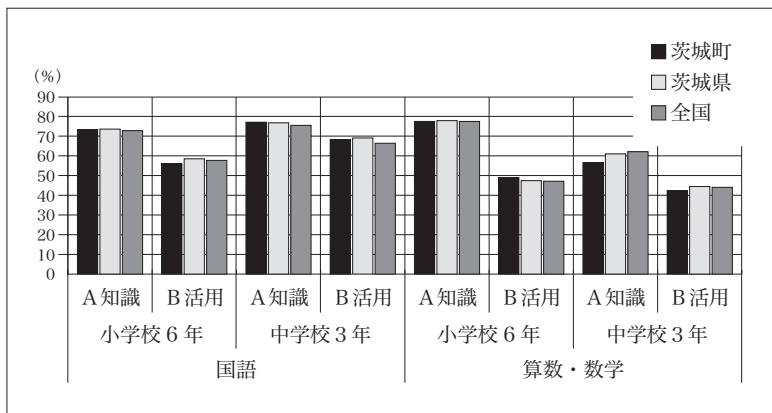
国語

1 小学校（参加児童数247名）

- ・A問題は全国平均を上回ることができましたが、B問題は全国を下回ってしまいました。「読むこと」に関しては全国・県を上回っています。茨城町で読書を推進している結果が出てきていると考えられます。
- ・「書くこと」については苦手意識があるようです。目的や意図に応じて、根拠を明確にして自分の考えを書き、説得力のある表現を身に付けさせていきます。

2 中学校（参加生徒数278名）

- ・A問題、B問題ともに全国平均を上回っています。
- ・「読むこと」において登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することや文章の構成を捉えることがよくできています。



算数・数学

1 小学校

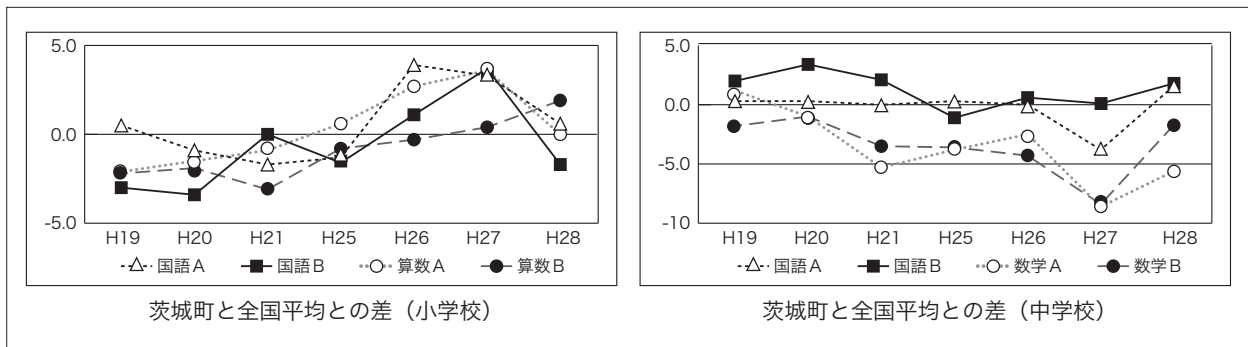
- ・無解答が減ってきており、問題をあきらめずに解く姿勢が見られます。特に、B問題は全国平均を大きく上回っています。数直線や図などを用いていろいろな方法で問題を考える児童が増えています。
- ・円を実際にコンパスで描く操作活動などに多く取り組んだ学校は、それに関連した問題の正答率が高い傾向にあります。日常生活の中での体験活動から、考える習慣を身に付けさせるようにしていきます。

2 中学校

- ・A問題、B問題ともに全国平均を下回っています。無解答率が高く、問題を途中であきらめてしまう傾向にあります。考える過程を大切にした指導に取り組んでいきます。
- ・他の人の考えを説明することが苦手です。自分の考えを述べるばかりでなく、相手の考えをしっかりと聞いて理解し、説明できる力を身に付けるようにしていきます。

全体

全国学力・学習状況調査が始まって10年が経ちました。（平成22年～24年は全部の学校が行っているわけではないのでグラフからは抜けています。）この10年の町の成績の推移を見ますと、小学校は徐々に向上している傾向にありますが、中学校は伸び悩んでいます。小学校では子供達自身が課題を見つけ、考える学習に取り組み、それが身に付いてきています。中学校では生徒が自ら学習に取り組む主体的な学習の充実を図り、子供達の学びに自信をもたせること、家庭学習の充実などに取り組んでいきます。



状況について

茨城町教育委員会

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より

小学校・中学校ともに全国を上回ったもの

「学校に行くのが楽しい」と回答している茨城町の子供達は、全国を上回っています。特に小学校は昨年度、今年度と統合が続きましたが、「友達が増えて楽しい」という意見が多く見られています。また、学校のきまりを話し合い、自分たちで生活をよりよくしていこうという姿も見られ、規範意識も高まっています。学習面では、「国語の勉強は好きである」「算数・数学の勉強は大切だと思う」などの回答が全国を上回り、学習に対しての意欲や意識の高さがうかがえます。この子供達の意欲を大切にして、学力につなげていく必要があります。学校では子供達の主体的な学びを引き出せるよう努力をしていきます。

小学校・中学校ともに全国を下回ったもの

「友達の前で、自分の考えや意見を発表するのは得意である」と回答した児童生徒が小・中学校ともに50%を切っています。これまでも、話し合いをし、発表する場面を設けてきましたが、まだ十分であるといえない状況です。考えの根拠をきちんとふまえることで、自信をもって発表できるようにしていきます。学習時間は、小・中学校とも全国を大きく下回っています。これに反してテレビやゲームの時間が多いのが本町の特徴です。特に受験を控える中学生は、時間の使い方を見直したいところです。全国的に新聞を読む時間が少ないのですが、本町では全国よりさらに少ないという結果です。タブレット端末が普及しペーパーレスという言葉がありますが、新聞から社会の状況に触れるというのは、視野を広げ、社会を考える点でも大切なことです。地域社会のボランティア活動への参加もやや低いです。統合が進みこれまでよりも地域とのかかわりが少なくなっているからこそ、地域でも子供達の様子を見ていただきたいと考えています。

これからの学習に向けて

「今の子供達の65%は、大学卒業時に、今は存在していない職業に就く」、「今後10～20年で、雇用者の約47%の仕事が自動化される」といった予測があります。将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子供達に対しては、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい知・価値を創造する力を育成することが大きな課題となっています。そのためには、子供達に「何を教えるか」だけでなく、子供達が「どのように学ぶか」という視点が重要です。「主体的・対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点で授業を改善し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習を充実させていくことが求められています。併せて、学校現場においては、ICT（情報通信技術）等も効果的に活用することが求められています。茨城町では今年度から全校に50台のタブレット型パソコン・電子黒板・無線LANを整備し、授業に活用しています。

【問合せ先】 学校教育課 ☎029-240-7138（直通）

※そう思う、どちらかというと思うと回答した児童生徒の割合

